

日本ナシ「新興」の収穫適期の目安						
[要約] 日本ナシ「 <u>新興</u> 」の <u>成熟期</u> は満開後日数約 190日、 <u>積算気温</u> 約 4,000℃以上で、収穫の目安は果皮色、地色ともカラーチャートで 4以上、pHは 4.5以上が目安である。						
長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
平成13年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

日本ナシ「新興」は晩生種で、成熟期の外観の変化は少なく、また、袋掛けをするため、収穫適期の判断が困難である。そこで、時期別に品質調査を行い、成熟適期の判断資料を作成した。

[成果の内容・特徴]

- ①果皮色（ていあ部）のカラーチャート値は経時的に上昇し、満開 190日以降の増加は緩やかになる（図 1）。
- ②地色（ていあ部）のカラーチャート値は経時的に上昇し、満開 180日以降の増加は緩やかになる（図 2）。
- ③果肉硬度及び糖度（Brix）は年次変化が大きく、成熟期の変化は少ない（図 3、4）。
- ④pHは経時的に緩やかに増加し、成熟期も増加した（図 4）。
- ⑤満開後日数と積算気温の変化は少なく、満開後日数から成熟期のおおまかな予測は可能である（図 5）。

[成果の活用面・留意点]

- ①有袋栽培であり、果皮色は袋の種類で異なる。
- ②満開期が 4月第 2半旬であると収穫時期は10月第 3半旬である。

[具体的データ]

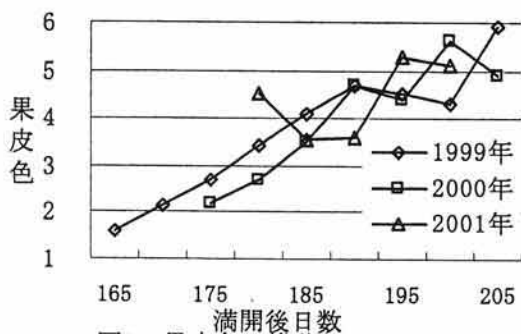


図1 果皮色の推移

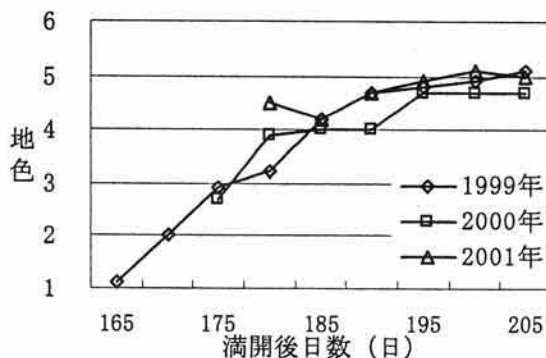


図2 地色の推移

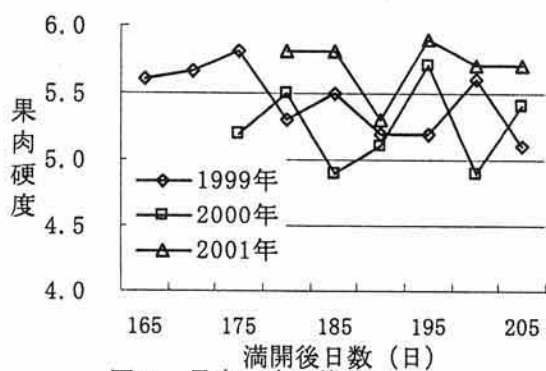


図3 果肉硬度の推移

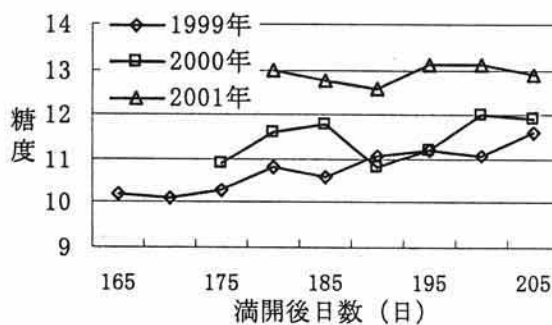


図4 糖度の推移

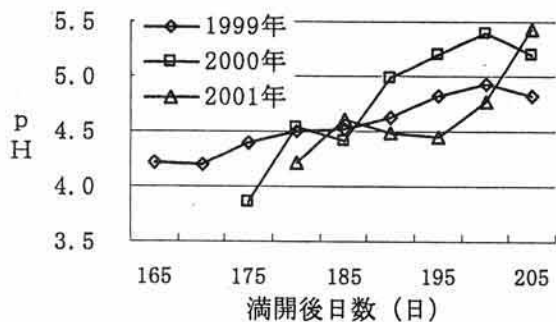


図5 pHの推移

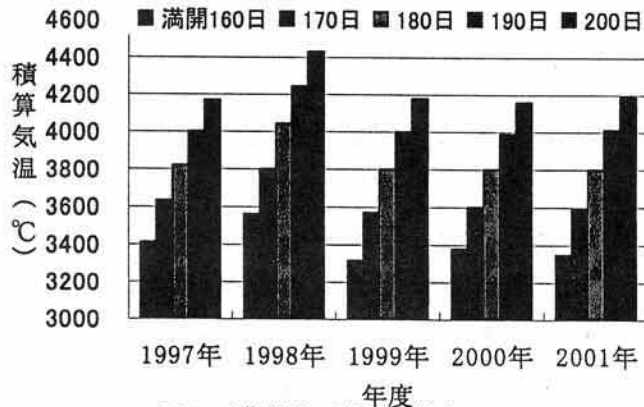


図6 満開後日数と積算気温

[その他]

研究課題名：西南暖地の特性を活かした晩生ナシの超高収益栽培技術の開発

予算区分：新技術地域実用化研究促進事業

研究期間：平成13年度（平成9～13年）

研究担当者：田中 実、中倉 建二郎、森田 昭、林田 誠剛

既発表論文等：なし